

## 谷口 久哲 氏 学位審査結果の要旨

主査：岡田 英孝

副査：中邨 智之、螺良 愛郎

前立腺癌の進行を抑制するアンドロゲン除去療法である、Gonadotropin-releasing hormone (GnRH) アンタゴニストから GnRH アゴニストへの切り替え療法の安全性と有効性について、無処置、低用量および高用量の GnRH アンタゴニスト投与したマウスモデルを用いて研究を行った。無処置群および低用量群では GnRH アゴニスト切り替え後の血清 LH 値、テストステロン値の上昇を認めしたが、高用量群では血清 LH 値の上昇したものの、テストステロン値の上昇を示さなかった。Leydig 細胞のサイズは各群間で差を認めなかったが、テストステロン合成酵素の発現量を解析したところ、低用量群で認められた発現増加は、高用量群で変化しないことが明らかとなった。

本研究は、GnRH アゴニストの切り替え療法における安全性と有効性について新たな知見をもたらすものであり、学位に値する。